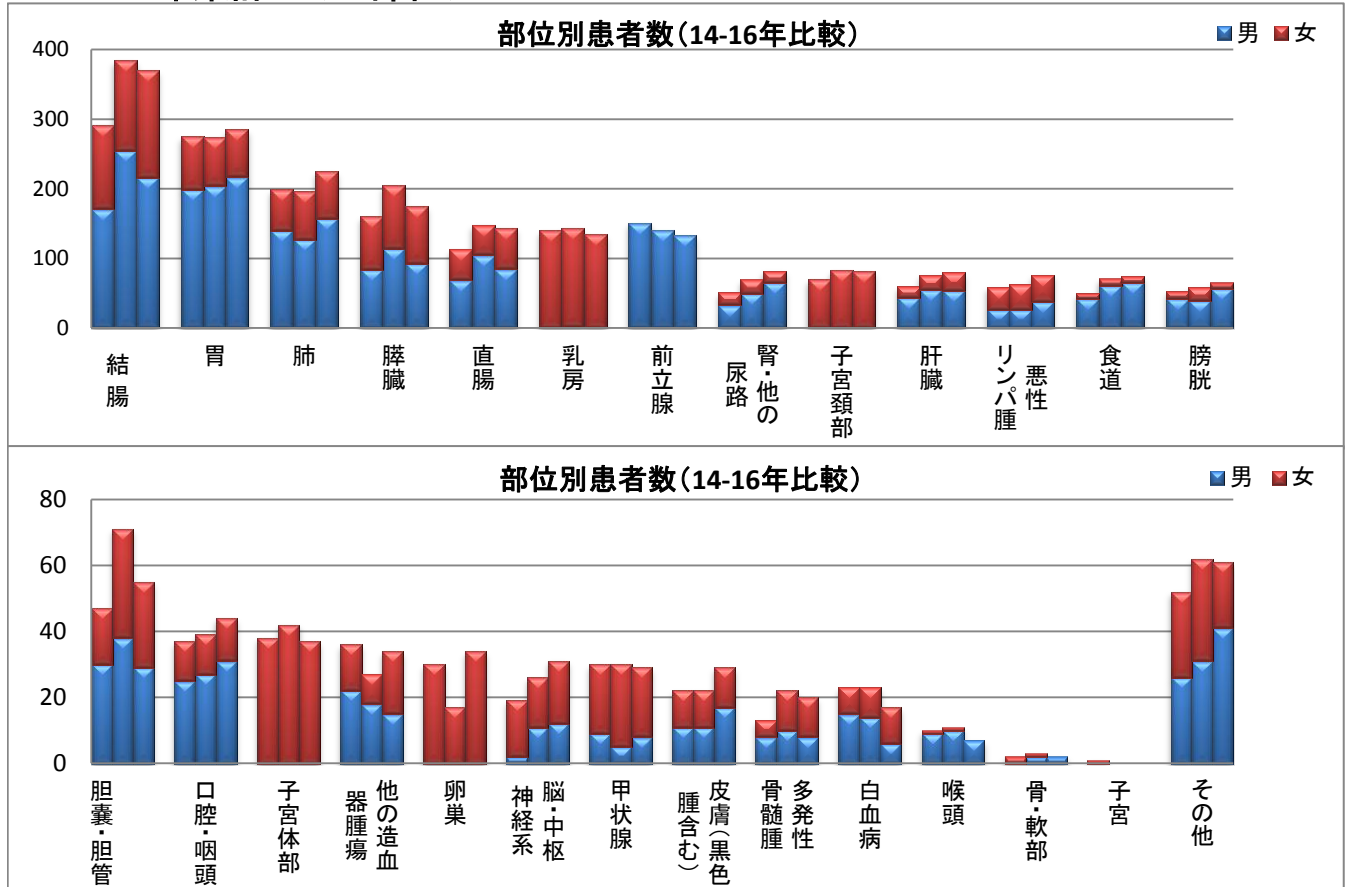


I. 2016年集計 <全部位>



	結腸	胃	肺	脾臓	直腸	乳房	前立腺	腎・他の 尿路	子宮頸部	肝臓	悪性 リンパ腫	食道	膀胱
14年	292	275	199	160	113	140	151	51	70	60	59	50	53
15年	384	274	196	205	148	144	140	70	83	76	63	71	59
16年	370	285	225	175	144	134	133	82	81	80	76	75	65

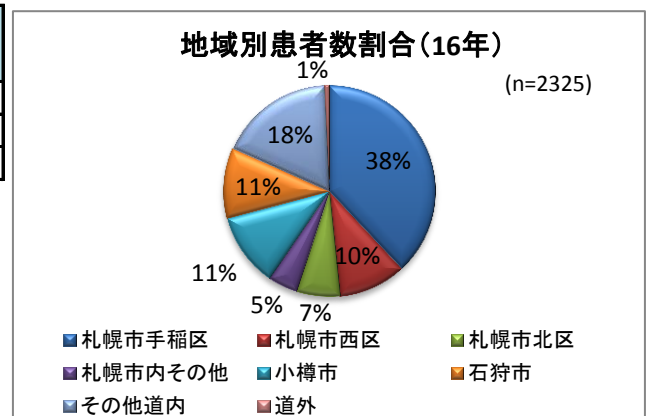
	胆嚢・胆管	口腔・咽頭	子宮体部	他の造血器腫瘍	卵巣	脳・中枢神経系	甲状腺	皮膚(黒色腫含む)	多発性骨髄腫	白血病	喉頭	骨・軟部	子宮	その他	総計
14年	47	37	38	36	30	19	30	22	13	23	10	2	1	52	2033
15年	71	39	42	27	17	26	30	22	22	23	11	3		62	2308
16年	55	44	37	34	34	31	29	29	20	17	7	2		61	2325

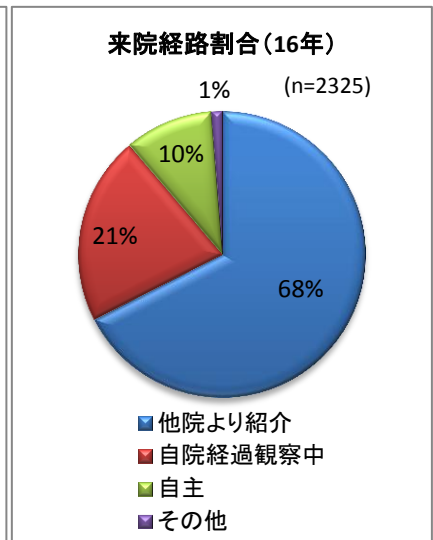
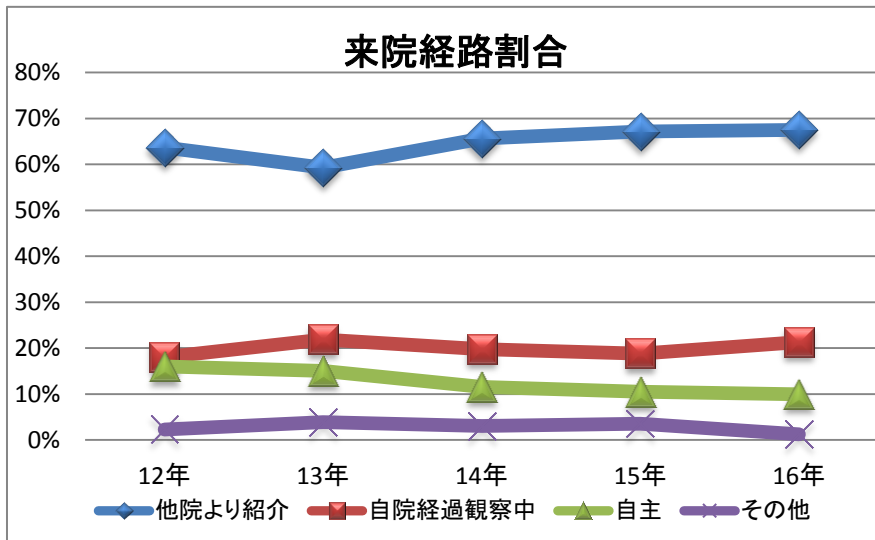
全体の比較では前年より大きな変化はみられなかった。

地域別患者件数

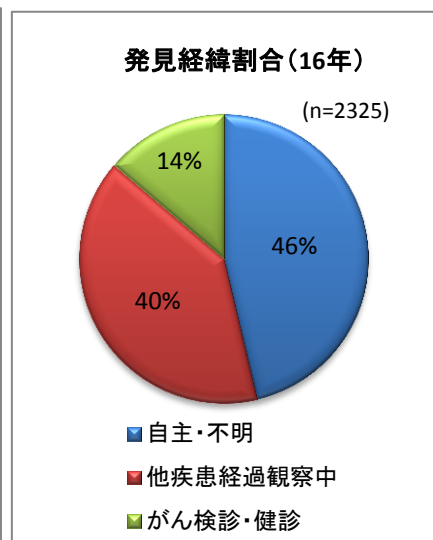
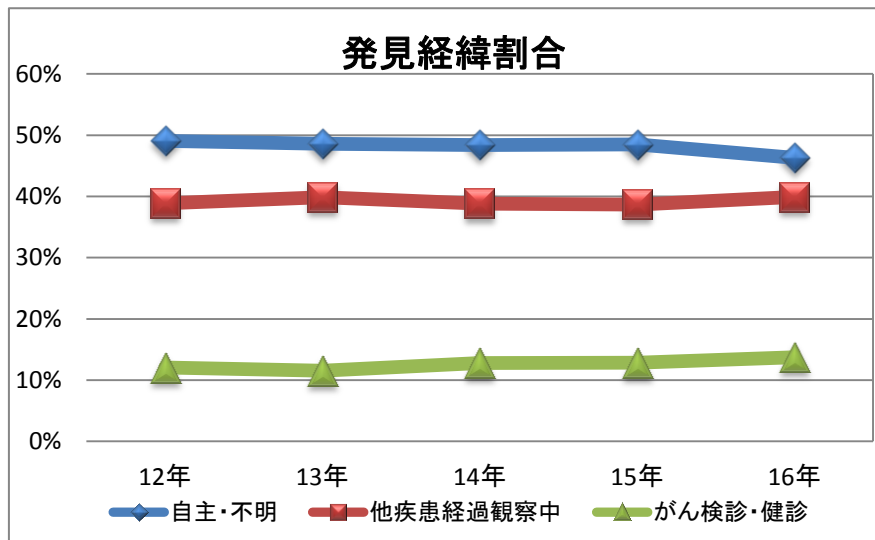
住所	札幌市 手稲区	札幌市 西区	札幌市 北区	札幌市 内その他	小樽市	石狩市	その他 道内	道外
14年	778	217	118	115	188	208	389	20
15年	915	234	129	127	222	221	445	15
16年	885	241	152	107	263	250	411	16

診断時の患者居住地をもとにした地域別患者数では、手稲区の患者数が前年より減少しているが、北区・石狩市・小樽市では患者数の増加がみられる。
16年単年の割合では、札幌市内が6割を占めており、市内からの受診が多くみられる。

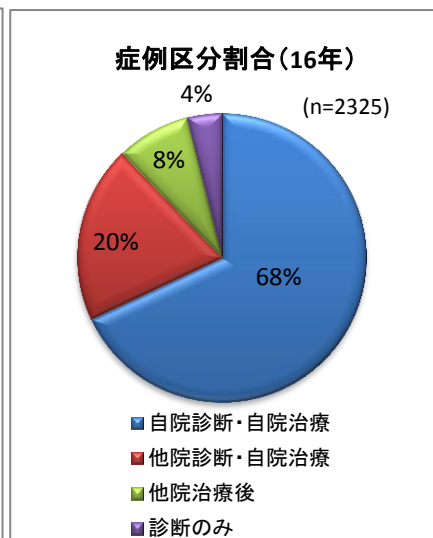
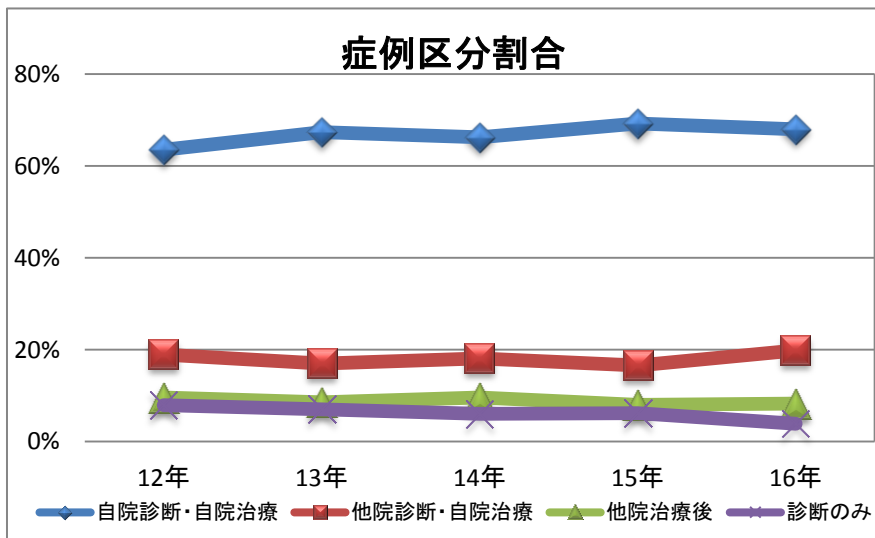




当院の外来が紹介型であることより、「自主」の割合は減少傾向となっている。
16年単年では「他院より紹介」の割合が約7割を占めている。



「自主・不明」の割合が前年より減少している。16年単年では「自主・不明」と「他疾患経過観察中」の割合が多い。
※「自主・不明」には「自覚症状が有るため受診した症例(自主)」と「経緯が不明(不明)」の症例が含まれている。



「診断のみ」の症例は年々減少し、「他院診断・自院治療」の割合に増加傾向となっている。
16年単年では「自院診断・自院治療」の割合が約7割を占める。